

林 炫情 LIM Hyunjung

研究分野：言語学、外国語教育

キーワード：社会言語学、言語習得、日本語教育、韓国語教育



研究トピックス：

異文化コミュニケーションと外国語教育

研究の要旨：

コミュニケーションは文化である。どのようなコミュニケーション様式をとるべきか、どのような状況で、いつ、どのような内容のコミュニケーションをすべきかは、それぞれの文化によって異なります。そのため、異文化とのコミュニケーションでは、言語の背景にある文化固有のもの見方、習慣、行動様式などに理解することが重要であります。一方、私たちは外国語を学ぶ過程を通して、その背後に広がるこれまで知らなかった視野を手に入れることができ、今までは見えなかった面が見えてくるようになります。同時に新たな情報も得ることができます。また、自分の知らない分野にまで視野を広げ、様々なことに興味・関心を持ち、また新たな分野で知識を学び続けるためのきっかけになります。さらに、異文化・異言語の相手を理解し、自分の主張を理解してもらうには、まず相手がどんな立場にあり、どのような考えをもっているのかを理解しておく必要があります。つまり、外国語を学ぶことはそういった人間性を磨くことにもつながるのです。研究では、主に日本語と韓国語のポライトネス (politeness) に関する社会言語学的研究、第二言語習得研究への応用言語学的研究、CLIL と外国語教育に関する研究を中心に行っています。直近の研究としては、「迷惑行為に対する言語行動：社会文化および性格特性に関するアジア諸言語の対照研究」や「韓国語リーダビリティを活用した読解学習支援システムの構築」などがあります。

主な関連業績：

林炫情・玉岡賀津雄・ジャミラ モハマド (2018)「社会的迷惑行為の認知と注意行動に対する背景諸要因 — 社会的合意と日本語学習による逆行転移に着目して」日本語用論学会第 21 回大会発表文集 (第 14 号) 9-16.

林炫情 (2019)「内容言語統合型学習 (CLIL) 韓国語授業における教師の役割」山東大学『多文化研究と学際的教育』国際シンポジウム発表

林炫情・李在鎬・浅尾仁彦・須賀井義教・斉藤信浩 (2020)「韓国語リーダビリティを活用した韓国語文章難易度判別システム「kReadability」の開発」朝鮮語教育学会第 84 回例会発表

[教員紹介へのリンク](#)

[教員データベースへのリンク](#)